

令和5年度第1回研究全体会  
研究開き特別講演 演題「主体性の育成」  
講師 松尾英明先生

『不親切教師のススめ』著者・千葉県公立小学校教諭

【日時】 令和5年4月19日(水曜日) 14:00~16:00

【場所】 本校図書室

## 1 主体性について

問1 「学級の子どもたちに求めるものは？」

→ 思いやりのある子ども。周りに優しく、自分に優しい子。

☆ 子どもに求める姿に、先に自分になる必要がある。(第7の習慣「刃を研ぐ」)

問2 主体性とは？

→ 自分で考えて行動する。自分から意欲的に行動、その行動に責任をもつこと。

☆ 言葉で説明できること、イメージできること、それが現実化できること (第2の習慣「終わりを思い描くことから始める」)

問3 「言うことをよく聞く」と「主体性」の関係 両立するか、しないか？

→ よく聞く、は受動的 主体性は、能動的。 主体性をうむためには、よく聞くも需要。

☆ 「主体性の育った子」が「言う事を聞かない子」では困る。両立しないとまずい。



「主体性」とは、「自己決定」と、  
その決定に「責任が取れる」様子

☆ 「言うことを聞こう」というのも主体性。その結果、うまくいかどうかは自分の責任として受け止めるべきこと。

## 2 事前の質問に対して

Q 一律に「揃える」をやめるとは？

A 「スタンダード」と「選択」へのシフト

例)「標準服は基本をスラックスにして、スカートも選べます。」

Q 不親切で、やらないことが効果的なのか？

A あえて、やらない。

「やってあげる」→最初は「感謝」される、次から「要求」される、最後は「文句」になる  
「恩恵は権利に変わる」

子どもが自分でできることは極力やらない（第3の習慣「最優先事項を優先する」）

子どもは自分でできることは本当は自分でやりたい。子どもをやりたいことを奪ってしまっていないか？

例 「クラス会議（円座、自分たちで問題解決）」 教師はほとんど口を出さない  
先生が答えを出してくれないと分かっているから本気になる

Q 子供に任せて放っておけばいいのか？

A 放っておいても良くはならない！

☆ 主体性を育成するためのルール

ルールは少ない方がいい。→ 学級で大事なものは、第一が「安全・安心」

大原則「人を傷つけない」（自分も含む）だけにしている

☆ 子どもが自分たちで作出したルールはよく守る

真面目な人に損をさせない = 「褒める」をベースにする

☆ 2：6：2の法則。上の子達に注目すると、みんなが上がって行く

危険なことをしていない限り、ふざけている子は放っておいて、よくやっている子を褒める（価値付け、評価）



### 3 授業について

自問自答すべきは「その管理、指導は妥当か？ 必要か？」

任せていくことで子どもの力がつく。

「必要な時は立ち歩いても良い」というルール

子ども同士が教え合う授業へ

得意の相互提供「得意なことがあるのはありがたい」

というパラダイムシフト

（支えられているし、自分も支えている） 「助けて!」「任せて!」と言い合える学級を作りたい

初めは先生が核だが、子どもにシフトしていく

任せて行くことで子どもの力がつく 「子どもによる授業」も実現可能

### 4 「危ないからダメ!」を減らす → 「危ないから、気をつける!」にシフト

怪我は準備と片付けの際に起こる → 教師が先に指導する

事前指導がポイント! 安全指導 「危険であることを忘れないうちは安全である」

### 5 丸つけを手放す 全て、教員が丸つけをしていると「お客さん」を作る

自分で学ぶ力がつく 学力が上がる

## 6 発達の違いや家庭事情に配慮し「一律の宿題をやめる」

間違いなおしなどを中心に出している

学力は授業でつける、学校の責任！

子どもが足りないのを自分でやる = 主体性

## 7 教室掲示

教室は子どものため 子どもが話し合っ考える

教室は誰のもの？ 教員のものではなく、保護者に見せるためのものではない

## 8 学級目標

学級目標は子供たちが作る 教員は時間の確保 ヒントは出す 全員が協力する

学級目標は子供たちが作りたから作る

## 9 喧嘩を解決してあげない →「折り合いをつけられる」子どもへ

いじめられているとわかって、自分で解決できそうなのは後方支援へ（絶対放置はしないが）

クラスのいわゆる「問題児」 教師の教育力では代わらないが子どもの教育力で変わる！

### 【グループ討議】

#### 学力向上部

- 子どもたちのためにやっている という再確認
- 授業の進め方のポイントなどを教えてほしい
- クラスの実践なのか、学校全体の実践なのか

#### 特別活動部

- 児童実態について 本校の子どもは主体性はあるのか、ないのか
- 自分で考えられない、意欲的に向かっていけないことも多い
- コロナの制限がマイナスだった
- 低学年は「やりたい」が大きい、教師の手助けも必要
- 課題として変えていかなければならないこともあるが、学力との両立など難しい
- 主体性の定義を学校で決める アプローチの仕方



#### LIM部

- 今聞いたような学級経営ができれば
- 事前指導が大事 どうやってやっていたのか
- 理想的な姿に近づくために、私たちは何から始めたらいのか
- 学校での取組なのか、学級での取組なのか
- どこまで子どもに任せるか

松尾先生から

授業の進め方について

○「教員が教えないとできないことだけしか教えない」

- ・漢字をどのように学ぶか、は事前に指導 徹底的にやってみせる モデルを示す（その後、子供に任せる、へ移行）
- ・社会は知識を与えないとできないことも多いか。理科も時数が問題。
- ・上の子が上がれば上がるほど、全体も上がる。難問も取り組ませるといい

仲間を育てると学力も上がる

- ・「日々」やる 「時々」ではダメ。 いつも話し合う、教えあう
- ・子どもにやらせると 100 %失敗する 失敗する前提でやらせる 失敗しても大丈夫、という安心感を与える学級経営。「わざと」でなくて失敗したことについては「大丈夫！」

何から始めるか

- ・低学年だからできない、はない その考えを取り払う
- ・子どもに任せるとめちやくちやになるが、やらせてみないとできるようにならない
- ・明らかに危険なことはやらせない（安全・安心の原則）「小さな怪我をさせて、大きな怪我を防ぐ」

実践は、学校？学年？学級？

- ・まず自分 少しずつ広がっていく（インサイド・アウト）

その他の質問

Y先生 「技能」の習得については？

技能の習得は個に任せる という考え

「善意の強制、価値ある強制」特に体育ではこれを気をつけている

本人ができるようになりたいと思っているか？

あまりやりたいと思っていない子にはいいのでは？

やらせられるならやらせてあげたい。

苦手があってもいい。できるようになって悪いことはない



S先生 「クラス会議」についての資料

お勧めは「クラス会議で学級は変わる」「クラス会議入門」

みんなの教育技術「1年生から学べるクラス会議」

T先生 体育着について

標準服 体操着 運動をするための服 安全面を考えて 合理的な理由があればいい

標準をどこに置くかは よく話をして

H先生 低学年・宿題の出し方

日記、自学をやっていたことがある。

ドリルは宿題にしたことがない　ドリルは学校で使うもの

宿題は、基本的には、「学校のおせっかい」学力をつけるのは、学校の授業中　家庭のことは家庭に

宿題は何のためにあるか？　大人の安心感　出さないと不安

今の学校では、間違い直しと読書、音読？

Y先生 「どちらがより良い生き方か？」を選ばせるのは難しい

依存している間は、自己決定できない　ただし目ははなさい

手を離しているけど、目を離さない　目を離しているけど、心は離さない

【謝辞】白石副校長

「何か違うことをやるのか？」と不安に思っている教員もいたと思うが、今日の話をもつて、これまでの実践とリンクさせていくことが大事と気付いた。これから、本校独自のものを作っていく。



研究全体会終了後も、いろいろな相談にのっていただきました